

海外安全対策情報（2021年1月～3月）

1 社会・治安情勢

(1) テロ等の傾向

ア パキスタンのテロ発生件数は、軍及び治安機関等によるテロリスト掃討作戦により、2009年以降大幅に減少したものの、アフガニスタンとの国境地域とバロチスタン州を中心に発生しており、引き続き警戒が必要である。テロ発生件数は前の期（2020年10月～12月期）から1件減少（41件→40件）し、死者は30人現象（74名→44名）、負傷者は164人減少（221人→57人）した。（当地シンクタンク「パキスタン平和研究所（PIPS）」調べ。）

また、2017年2月から開始されている軍及び治安機関等による対テロ作戦（ラッドウル・ファサード（Radd-ul-Fasaad・脅威の除去））は引き続き国内各地で実施されており、テロリストの検挙、武器等の押収等治安機関は一定の成果を収めている。

イ 今期においても、単独又は少数による自爆、襲撃及び即製爆破装置（IED）攻撃が主要なテロの手段であり、その標的の多くは軍・治安当局とその関連施設であるが、テロ組織の中には中国・パキスタン経済回廊（CPEC）や中国関連施設への攻撃を企図する勢力もある。

ウ 都市部や地方の別に関わらず、治安当局によるテロリストの拘束事件及び武器・弾薬等の押収事件も多く確認された。こうした状況から、治安当局による徹底した取締りが行われているが、依然としてイスラマバード首都圏を含めた都市部においてもテロの脅威は存在している。

(2) 各種デモ

当地では、主に金曜礼拝後、各種団体による様々なデモが行われる傾向にあり、デモ参加者の行動がエスカレートし一部が暴徒化することもある。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 邦人被害事案

なし

(2) 銃器使用犯罪

本期間においても、前期と同様に銃器を使用した犯罪及び押収事案が相次ぎ、特に主要道路から離れた路地等人通りが少ない場所においては、その危険性が高い。主要都市部においても、銃器を使用した強盗事件（ガンポイント）や侵入強盗事件が散発的に発生している。

治安当局は継続的な銃器の取締りに取り組んではいるものの、違法に所持し摘発されるケースが後を絶たず、違法銃器の蔓延が問題となっている。

(3) 招き入れ型侵入犯罪

イスラマバード首都圏は富裕層が多く居住しており、各家屋には警備員やド

ライバー等の使用人を雇っている家主が多いが、これら使用人が犯罪者側と共謀し家屋内に招き入れて犯罪に加担する事件が時折発生している。また、当地警察は、ガス、電気会社の職員を装った強盗が、家主の不在間に機器の点検目的を装い家屋に侵入し、金品を窃取する事件が増加傾向にあるとの注意喚起を出しているため、在宅の有無にかかわらず施錠を行うほか、使用人、警備員等への指導を徹底する必要がある。

(4) 名誉殺人

当国では地方を中心に、親が認めない相手との交際などで、家族の名誉を汚したとして女性又はその交際相手が殺害される、所謂名誉殺人が跡を絶たない。今なお保守的なパキスタン社会では、毎年数百人の女性が名誉殺人の犠牲になっており、今期も凄惨な殺害事件が発生している。また、当地では親同士が本人の意思と関係なく決めた相手と結婚させるのが都市部でさえ一般的であり、それに起因するトラブルで結婚相手やその家族・親族等からのDV被害も深刻な問題となっている。

(5) 性犯罪及び虐待

当地では、強姦を含む性犯罪及び虐待事件が頻繁に報道され、その発生件数は多いと言える。同種事件の被害者は、二次被害のおそれ等から警察に届け出ないことが多く、被害実態は正確に把握できない。被害者の年齢及び性別は多様で特に子供をターゲットにした極めて悪質な犯行も多く発生しており、誰もが被害者になる可能性がある点に注意する必要がある。

(6) サイバー犯罪

パキスタン連邦捜査局（F I A）サイバー犯罪部門は、SNSを通じた詐欺投資話、違法な資金取引、児童ポルノのアップロード等、サイバー領域における監視を強化している。F I Aでは、違法な手段で入手した資金がマフィアの活動資金となっているとして、摘発を強化している。

(7) プロの物乞い

イスラマバード首都圏では、ギャングの支配下にある物乞いが問題となっており、イスラマバード警察では摘発に力を入れている。道路上での物乞いを装って、拳銃強盗を働くケースも報告されている。物乞いに窓を開けて対応する等、不注意な行動は犯罪者に隙を与えるため、慎む必要がある。

(8) その他

本期間においても連日、不法な銃器・爆発物・薬物・酒類の押収事案が報じられた。これらの事案は、厳重な警戒下にあるイスラマバード市内においても、テロ発生の可能性は依然として排除できないことを示している。

3 2020年4月から2021年3月までのテロ発生状況

2020年

4月	8件、死者	10名、負傷者	13名
5月	14件、死者	30名、負傷者	10名

6月	15件、死者	20名、負傷者	41名
7月	16件、死者	17名、負傷者	45名
8月	12件、死者	14名、負傷者	86名
9月	10件、死者	11名、負傷者	12名
10月	16件、死者	40名、負傷者	124名
11月	10件、死者	16名、負傷者	7名
12月	15件、死者	18名、負傷者	90名
2021年			
1月	13件、死者	21名、負傷者	21名
2月	16件、死者	22名、負傷者	18名
3月	11件、死者	14名、負傷者	5名

(出典：パキスタン平和研究所)

4 安全を考える上で参考となる事件等（報道ベース）

*以下、パキスタンを「パ」と表示

- 1月2日、パンジャーブ州テロ対策局（CTD）はラホールにおいて、インテリジェンス情報に基づいた特別チームによる作戦を実行し、テロ資金調達に関与したとして、ラシュカレ・タイバ（LeT）主要幹部ザキウル・ラヘマン・ラクヴィーを逮捕した。
- 1月6日、KP州モーマンド部族郡の「パ」軍哨所を狙い、アフガニスタン側からテロリストらが越境攻撃を実施した。「パ」軍は即座に報復攻撃を行い、双方間の銃撃戦により、「パ」の辺境警備隊（FC）兵士1名が死亡した。
- 1月6日、パンジャーブ州サルゴダのCTDは、サルゴダから約50キロメートル離れた Khushab の Girot 地区において、武器や爆発物を装備した非合法団体シパーヘ・ムハンマド（※Sipah-i-Muhammad。シーア過激派組織）所属テロリスト7名を逮捕した。同人らの所持品から、銃弾を装填したカラシニコフ銃1丁、爆発物3キログラム及び起爆装置が押収された。
- 1月9日、KP州 Battagram 地区において、警察がインテリジェンス情報に基づいた作戦を実行し、Thakot バザールに潜伏していたテロリスト1名を逮捕した。逮捕時に同テロリストが警官らに向けて発砲し、警官1名が死亡した。同テロリストの所持品からは、9mm 拳銃1丁が押収された。
- 1月10日、KP州北ワジリスタン部族郡 Doga Macha の Kani Roga において、「パ」軍がテロリストの隠れ場所に対し、インテリジェンス情報に基づく作戦を実行し、テロリスト2名を殺害した。また、同作戦に参加した「パ」兵士1名が死亡した。
- 1月11日夜、KP州北ワジリスタン部族郡 Khadi 村付近の、バンヌーミランシャー・ロード上に所在する検問所に対し、ミリタントらが襲撃した。「パ」兵士1名が死亡、2名が負傷した。
- 1月12日、KP州カラックの Latamber 地域において、ポリオ・ワクチン

接種チームが何者かによる銃撃を受け、同チームの警護にあっていた警官1名が死亡した。同チームの医療従事者らにけがはなかった。犯人は同警官の銃を奪い、現場から逃走した。

- 1月12日深夜、KP州北ワジリスタン部族郡 Speenwam 地域において、テロリストらが治安部隊の検問所を重火器で攻撃した。テロリストらと治安部隊の間で銃撃戦が発生し、兵士2名が死亡、3名が負傷した。
- 1月14日、KP州北ワジリスタン部族郡ダッターヘール郡 (tehsil) Manzerkhel 地域において、治安部隊がインテリジェンス情報に基づく作戦2件をそれぞれ実行した。テロリストの隠れ場所に踏み込み、IED製造専門家1名を含むテロリスト2名を殺害した。同IED専門家は、TTP分派 Toofan グループの代表で、複数の事案に関与したとして、CTDに指名手配されていた。また、治安部隊とテロリスト間の銃撃戦により、「パ」兵士3名が死亡した。
- 1月15日、KP州北ワジリスタン部族郡ミラーリ Azizkhel 地域の検問所付近において、何者かが治安部隊に対して銃撃。「パ」兵士1名が死亡した。
- 1月18日、KP州南ワジリスタン部族郡 Nargosa 地域において、治安部隊がインテリジェンス情報に基づく掃討作戦を実行した。治安部隊とテロリストの間で激しい銃撃戦が発生し、テロリスト2名が死亡、1名が負傷し逮捕された。死亡したテロリストらは、パキスタン・タリバーン運動 (TTP) Sajna グループに所属しており、IED製造専門家かつテロリスト訓練者だった。昨年2020年10月14日に発生し、「パ」軍司令官1名及び兵士5名の計6名が死亡したテロ事案（注：同州北ワジリスタン部族郡ラズマク付近における、治安部隊の2車両に対するIED攻撃）を含む、複数の治安部隊に対する攻撃に関与していた。
- 1月18日、KP州マルダンのCTDは、内報に基づく作戦を実行し、複数の事案に関与していたとして、同州マラカンド及びマルダン両警察によって指名手配されていたテロリスト1名を逮捕した旨声明を発出した。同人の所持品から、手榴弾2発、拳銃1丁及び弾薬15発を押収した。同人は、2008年に発生した、マラカンドにおける電力事業に従事していた中国人エンジニアの誘拐事案にも関与したとみられている。
- 1月18日夜、KP州バジョール部族郡 Mamond 郡 (tehsil) において、アフガニスタン・クナル県から打ち込まれた迫撃砲により、店舗2軒が破壊された。迫撃砲は、パク・アフ国境地域の Laghari 及び Mula Killi に着弾したが、死傷者はなかった。「パ」治安部隊は直ちに報復攻撃を行った。犯行声明は発出されていない。
- 1月20日夜、治安部隊は、KP州バジョール部族郡 Utmankhail 郡 (tehsil) Qazafi 地域において、インテリジェンス情報に基づく作戦を実行した。治安部隊とミリタントらとの間で銃撃戦が発生し、同地域でテロ攻撃を計画していたとされるパキスタン・タリバーン運動 (TTP) の主要指導者2名を殺害し

た。同人らの所持品からは、大量のライフル銃を含む兵器、爆発物、地雷及び弾薬が押収された。

- 1月23日、KP州北ワジリスタン部族郡ミラーリの Mossaki 村において、治安部隊がインテリジェンス情報に基づく作戦を実行した。銃撃戦により、ミリタント司令官1名が殺害された。同人は、先般発生した辺境警備隊（FC）への攻撃を含む、同地域における治安部隊に対する複数の攻撃に関与した。
- 1月24日、北ワジリスタン部族郡 Khaisur 及びミラーリにおいて、治安部隊がインテリジェンス情報に基づく作戦2件を実行した。TTP Gohar グループ及び同AKKグループのミリタント司令官計2名を含むテロリスト5名が殺害された。同司令官らは、治安部隊に対するIED攻撃や自爆攻撃等を含む、複数のテロ活動に関与していた。
- 1月26日、KP州は、TTPが同州ペシャワールにおいて教育機関等に対するテロ攻撃を企図しているとして脅威情報を発出した。
- 1月30日夜、KP州ペシャワールの中央刑務所付近において、インテリジェンス情報に基づく作戦を実行していた警察官らに対し、銃撃犯2名が発砲した。CTD所属警察官1名が死亡し、同警察官と一緒にいた2名が負傷した。犯人らの身元は判明しておらず、動機も不明である。
- 1月31日、KP州北ワジリスタン部族郡 Razmak 地区 Dumdail 地域において、巡回中だった治安部隊を狙ったIEDが爆発し、「パ」兵士2名が負傷した。同治安部隊は銃撃して応戦したものの、攻撃者らは現場から逃走した。
- 1月31日、KP州バジョール部族郡のアフガニスタンとの国境地域、Kaga 地域において、警察がインテリジェンス情報に基づく作戦を実行した。治安部隊に対する攻撃に使用するため隠されていた、手榴弾19発、ロケット・ランチャー11発、RPGライフル銃1丁、遠隔操作爆弾2発等の武器を押収した。
- 2月1日、KP州ローワー・ディールのアフガニスタンとの国境地域において、治安部隊がインテリジェンス情報に基づく作戦を実行した。銃撃戦により、テロリスト3名を殺害した。同人らの所持品から、大量の兵器、弾薬及び手榴弾が押収された。同テロリストらは、2019年に同州スワートで発生した複数件の標的殺害事案に関与しており、「パ」国内において更なる標的殺害を計画していた。
- 2月3日、KP州北ワジリスタン部族郡 Spinwam 郡 (tehsil) Sher Atala 地域 Mir Ali の住宅地において、治安部隊がインテリジェンス情報に基づく掃討作戦を実行した。テロリストらとの間で銃撃戦が発生し、「パ」兵士2名が死亡、4名が負傷した。また、Hafiz Gul Bahadur グループの主要司令官及びパキスタン・タリバーン運動（TTP）所属テロリストを含む、テロリスト4名が殺害された。同人らは、身代金目的の誘拐、恐喝、治安部隊への襲撃及びIED爆発に関与した。
- 2月10日、イスラマバードにおいて、賃上げを求める公務員によるデモが行われ、治安部隊とデモ隊の間で衝突が起こり、警察は催涙ガスを使用するな

どしてデモの鎮圧にあたった。

- 2月11日夜、K P州南ワジリスタン部族郡 Makeen 地域において、T T P 所属の武装テロリスト10名が、治安部隊の検問所を襲撃した。「パ」兵士4名が死亡した。また、治安部隊の報復攻撃により、テロリスト4名が殺害された。
- 2月12日、K P州バジョール部族郡のアフガニスタンとの国境地域、Nawagai 郡 (tehsil) の Charming 峡谷において、治安部隊がインテリジェンス情報に基づく作戦を実行した。複数の場所に隠されていた、大量の武器及び爆発物等を押収した。治安部隊によると、これらの武器は、T T P 所属テロリストらが印調査分析局 (R A W) の要請を受け、治安部隊への攻撃やテロ活動に用いるため準備していた。
- 2月16日夜、K P州北ワジリスタン部族郡ミラーリ近郊の Khushali 地域において、治安部隊がインテリジェンス情報に基づいた作戦を実行した。銃撃戦により、隠れ場所にいたアリーム・カーン・クッシュハーリー (Aleem khan khushali) グループ所属テロリスト3名を殺害した。同人らは、標的殺害、身代金目的の誘拐、恐喝、治安部隊への銃撃及びI E D爆発に関与した。
- 2月17日、K P州D Iカーンの Dera-Tank Road において、治安部隊及び警察が内報を受け、インテリジェンス情報に基づく合同作戦を実行した。4～5キログラムの爆発物等が入った自爆ベストを着用していた、自爆未遂犯1名を殺害した。
- 2月17日、K P州ローワー・ディール Mayar の Jangal Shaheed Kandao において、マラカンド地域のC T D及び治安部隊が、インテリジェンス情報に基づく作戦を実行した。I S I L所属ミリタント3名を逮捕し、同人らの所持品から、手榴弾、ピストル、爆発物等を押収した。
- 2月18日夜、K P州南ワジリスタン部族郡 Sara Rogha 地域において、武装したテロリストらが治安部隊の検問所を襲撃した。「パ」兵士5名が死亡、1名が負傷した。犯行声明は発出されていない。
- 2月19日夜、K P州北ワジリスタン部族郡 MalikKhel において、治安部隊がテロリストの潜伏場所に関する内報を受け、インテリジェンス情報に基づく作戦を実行した。治安部隊とテロリストの間で発生した激しい銃撃戦により、テロリスト2名及び「パ」兵士1名が死亡した。死亡したテロリストのうちの1名は、I E D (製造) 専門家の司令官で、2009年から同地域において治安部隊に対する攻撃、恐喝、身代金目的の誘拐及び標的殺害等、様々なテロ活動に関与していた。治安部隊は掃討作戦を行い、隠されていた大量の武器を押収した。
- 2月22日、K P州北ワジリスタン部族郡ミラーリ付近の Eppi 村において、武装した覆面のテロリストらが、車両で移動中だった職業訓練士の女性4名を射殺した。同車両の運転手1名が、銃弾を受けて負傷した。同車両には、バンヌー地区在住の職業訓練士の女性5名が乗車していた。同女性らは、地域女性

の職業能力を向上させるためのバンヌーの専門学校 Bravo College の職員で、女性たちへ職業訓練を実施するため、バンヌーから Eppi 村へ向かっていた途中だった。

- 2月22日、KP州DIカーンのHathala 検問所において、警察がテロリスト1名を逮捕し、同人の車両から850グラムの爆発物、及び、ライフル銃やピストル等の武器を押収した。同車両に同乗していた他3名は、現場から逃走した。
- 2月21日夜、KP州DIカーンのDhappaan Wala 検問所において、IED1発が爆発した。もう1発は、爆発物処理班によって処理された。同爆発による死傷者は報告されていない
- 2月23日、KP州北ワジリスタン部族郡Mir Ali の村において、治安部隊が踏み込み捜査を行い、22日に同部族郡で発生した援助活動家の女性4名の殺害に関与したTTP司令官を、銃撃戦の末に殺害した。同司令官は、IED攻撃、身代金目的の誘拐、標的殺害及び恐喝を含む治安部隊や民間人に対するテロ活動、並びに、テロリストらの勧誘に関与していた。
- 2月27日午後4時頃、KP州バジョール部族郡Barang 郡 (tehsil) Asil Targaoo 地域において、道路脇に仕掛けられていた遠隔操作爆弾が爆発し、帰宅途中だった部族の長老1名が負傷した。同人の警護をしていた親戚の警察官1名も負傷した。犯行声明は発出されていない。同地域では、2月23日にも、部族の長老1名が、自宅近くの道路脇に仕掛けられた爆弾の爆発により殺害される事案が発生している。
- 3月6日、KP州北ワジリスタン部族郡Boya 及びDosalli 両地域において、治安部隊がテロリストの隠れ場所に対し、インテリジェンス情報に基づく作戦2件を実行した。両者間の銃撃戦により、Toofan、Tariq 及びSadiq Noor 各グループの司令官3名を含む、TTP所属テロリスト計8名が死亡した。同人らは、2009年以降、治安部隊、法執行機関及び同地域の人々に対する、IED攻撃、銃撃、標的殺害及び身代金目的の誘拐を含むテロ活動、並びに、テロリストらの勧誘に関与していた。治安部隊は同隠れ場所から、大量の武器を押収した。
- 3月7日、KP州北ワジリスタン部族郡ダッターヘール及び同州南ワジリスタン部族郡Zoida において、治安部隊がインテリジェンス情報に基づく作戦2件を実行した。治安部隊とテロリストらの間で発生した激しい銃撃戦により、TTPのBismillah 及びSajna 各グループ所属のテロリスト司令官ら計4名が死亡した。同人らの中には、北ワジリスタン部族郡各地及びZoida におけるIED攻撃、政府施設への銃撃、標的殺害、身代金目的の誘拐、恐喝及びテロリストらの勧誘等に携わり、2014年以降、治安部隊、法執行機関及び地域の人々に対する、テロ活動20件以上に関与した者などが含まれている。
- 3月16日夜、KP州北ワジリスタン部族郡ダッターヘール郡 (tehsil) Laand Mohammad Khel 村において、何者からが民家を強襲し、住人の男性1名

を射殺した。射殺された男性の従兄弟1名が負傷した。

- 3月18日深夜、K P州北ワジリスタン部族郡ダッターヘール郡 (tehsil) において、覆面の犯人らが民家に押し入り、男子学生1名を射殺した。国家データベース機構 (NADRA) 勤務の同人の従兄弟が重傷を負った。犯人らは現場から逃走した。
- 3月25日未明、G Bナルタール渓谷の道路を乗客18人載せて走行中の車両に対して武装勢力が発砲し、女性を含む乗客6名が死亡、7名が負傷した。警察が容疑者3名を逮捕し、いずれも地元住民であった。
- 3月25日早朝、K P州バジヨール部族郡マーモンド地区 (※郡庁所在地のハールから約16km地点) で発生した遠隔操作爆弾によってイスラム政党JUI-F幹部のモーラーナー・アブドゥル・サラーム・ハッカーニーが重傷を負った。
ハッカーニーは同党の地区副支部長。自身が勤務するマドラサへの出勤途中に事件に遭った。犯行主体等事件の背景は不明である。
- 3月25日未明、K P州D Iカーン郡クラーチ地区で武装勢力が巡回警備中の警察車両をロケット・ランチャーで襲撃、少なくとも警察官2名が負傷した。警察が応戦し、武装勢力は逃走した。犯行声明は出ていない。

5 誘拐・脅迫事件発生情報

当地では、パキスタン人が誘拐される又は誘拐後に殺害されて発見される事件が頻繁に発生している。今期、パンジャーブ州ラホール市において、外国籍の旅行者が誘拐される事件が発生した。

誘拐・脅迫事件の背景としては、テロ組織による、誘拐事件を利用した政府等への身代金等の要求又は資金稼ぎを目的として犯行に及ぶケースの他、一般犯罪者が、強姦等の性犯罪や身代金目的で行うケースがある。このような誘拐事件は、解決までに多大な労力・時間を要すると共に、誘拐された被害者が殺害される可能性もあることから、事件に遭わないための安全対策が重要である。

女性や子供が性犯罪目的で誘拐される事件が多く報道された。

6 日本企業の安全に関わる諸問題

これまでのところ、邦人及び日系企業に対する脅威情報には接していないものの、2017年5月にはクエッタにおいて中国人の誘拐・殺害事件が発生したほか、同年7月にも、カラチ市内の幹線道路において中国人技術者を対象とした爆発事件が発生するなど、外国人が、事件に巻き込まれるケースも発生している。

2020年12月15日、カラチ市南地区において中国人の車両に遠隔装置爆弾が設置されたが不発だった。この中国人はレストランを所有している。同人がクリフトン地区のショッピングモールから帰宅していたところ、オートバイに乗車した2人の男が中国人車両に接触した後に逃走した。その際に爆発物が磁石で取り付けられた。

活動地域の最新の治安・安全情報の入手を欠かさず、安全を第一に考えた行動方針を定め、先ずは事件に遭遇しないための対策を講じるとともに、万が一の事態を想定した具体的な警備・連絡体制を確立することが重要である。

また、当国政府の政策として、外国人の入域を制限している地域が国内各地に存在し、そのような地域に政府からの事前の許可を得ず（又は事前通報をせず）入域した場合には、現地治安当局による安全対策がなされないばかりか、速やかな退去を命ぜられ、また犯罪に巻き込まれた際に通常の警察活動が期待できない場合があるので、当国政府の規定に従い、事前に然るべき手続きを行うことが必要である。なお、手続きを行ったにもかかわらず、政府からの入域許可が得られない場合には、安全上の問題が生じる可能性があるため、当該地域への入域は控えることが望ましい。

(以上)